

授業科目	国際保健医療・看護論	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310 号) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(小池 真理子)、(近藤 美智子)		
概要	社会のグローバル化により国際的な視野で看護の役割・機能を捉え、国際活動に貢献できる人材が必要とされている。本科目では、主に開発途上国の人々の健康と保健・医療・看護の現状についての理解を深め、人々の健康に影響を及ぼしている社会・経済・文化的要因について学習する。また、国際保健医療活動の実践例および国際協力活動計画の立案を通して、人々の健康問題を改善するために必要な看護職の活動を理解し、国際保健医療・看護活動における看護職の役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界の人々の健康水準および保健医療サービスの格差とその背景について説明できる。</li> <li>2. 国際保健医療・看護の主要概念および組織について説明できる。</li> <li>3. 国際保健および看護活動の実践例を通して、異文化における支援活動を理解し、国際協力における現在の問題点や今後の課題について説明できる。</li> <li>4. 国内外の異文化にある人々の健康改善に向けた看護職の役割を説明できる。</li> <li>5. プライマリヘルスケアの原則に基づいて、国際協力活動計画を立案できる。</li> </ol>		
関連科目	国際関係論、国際協力論、環境保健論、健康管理論		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	80%	レポート：海外協力における保健・医療分野の要請を1つ選択し、活動計画を立案する。評価のポイントは、現状分析の客観性、活動計画の具体性・実行可能性、およびプライマリヘルスケアの原則に基づく記述内容について。 ミニレポート：各回の授業終了後のミニレポートへの取り組みを評価のポイントとする。
	ミニレポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①森淑江他編 [2019年] 「国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために」 南江堂 ②一戸真子編 [2016年] 「国際看護 言葉・文化を超えた看護の本質を体現する」 Gakken		
履修上の留意点	授業スケジュールは、外部非常勤講師の都合および学習の進捗状況により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	コースガイダンス 国際保健医療・看護の主要な概念 先進国と開発途上国の健康水準の格差と背景 保健医療分野における国際機関 など	事後：講義の復習 取り組むテーマの検討	講義	正岡
2	日本のODAによる看護活動ー青年海外協力隊 セネガルへの協力	事後：ミニレポート	”	(小池)
3	国際緊急援助活動ー災害医療支援の実践例 ・JDR, UNHCR, スフィアプロジェクト等	事後：ミニレポート	”	(近藤)
4	海外協力における保健・医療分野の要請を基に活動計画を考える①	事後：文献検索・計画書立案	講義・演習	正岡
5	災害支援における心のケアとストレス対処 ・被災者の心のケア ・救援者の心のケア	事後：ミニレポート	講義	(近藤)
6	在留外国人の健康問題と看護	事後：ミニレポート	”	”

7	海外協力における保健・医療分野の要請を基に活動計画の立案②	事後：文献検索・計画書立案	講義・演習	正岡
8	国際保健医療・看護活動のまとめ レポート課題について	事前：文献検索 事後：レポート作成・提出	講義	”